

2020年度 アドバイザリー委員会資料(抜粋)

「JSTのダイバーシティ推進」

2021年2月18日



科学技術振興機構



前回 ダイバーシティアドバイザー委員会

委員会でのご意見を踏まえたJSTの対応

2020年7月メール開催

I. JSTファンディング事業におけるダイバーシティ推進

- プログラムの運用として女性研究者をターゲットとし応募を増やすこと
 - 若手向け小規模のACT-Xの制度により、女性が応募しやすい体制を整備
- ライフイベント支援について、支援金だけでなく環境・人的支援など個々の事情に合った柔軟な支援が必要
 - 対象のファンディング事業を拡大(=ACT-X、創発的研究支援事業を追加)し、研究期間の中断、延長について当該事業の趣旨である若手研究者育成に即した支援制度を導入

II. 社会への発信(国内外)などの活動におけるダイバーシティ推進

- 輝く女性研究者賞について、引き続き応募が少ない分野への幅広い周知が必要
 - 論文以外の特筆すべき成果を有する応募者(産業界のエンジニア等)に向けた制度改善を準備

III. JST内部のダイバーシティ推進

- 女性活躍推進について、比率向上の目的の明確化、研修や評価基準の見直し、職場環境の整備が重要
 - JSTの使命であるイノベーション創出を目的とし、研究者と職員に多様性を確保することは手段であることを確認した。そのために必要な、JST職員意識調査(10月)を実施し、多様な働き方を推進する人事制度を導入及び労働環境の改善を図った。2021年度に向けて評価制度の見直しにも着手予定

I. JSTファンディング事業におけるダイバーシティ推進

- 1) 女性研究者の参画状況
- 2) 女性参画に影響するJST委員会等の女性比率
- 3) 若手研究者、国際頭脳循環・国際連携
- 4) JST事業参画研究者のライフイベント支援

II. 社会の動向を踏まえた発信(国内外)

- 1) 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)
- 2) ジェンダーサミット(GS)の展開
- 3) 理系人材の裾野を広げる取組

III. JST内部のダイバーシティ推進

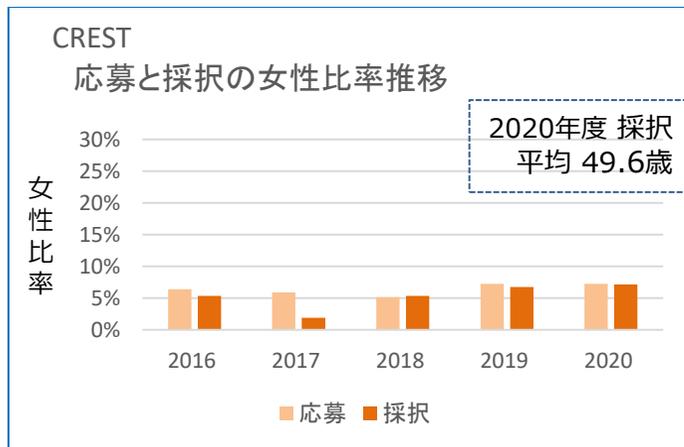
- 1) JST内部のダイバーシティ推進

I. ファンディング事業 1) 女性研究者の参画状況

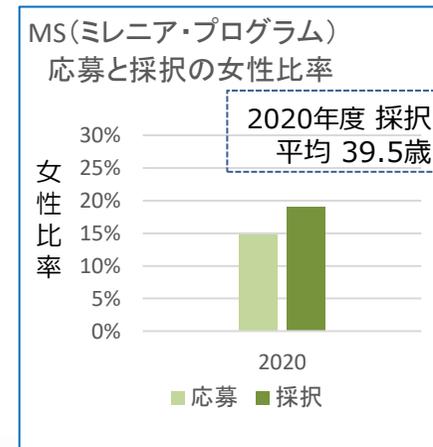
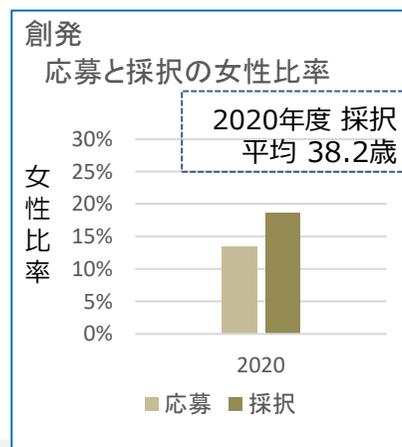
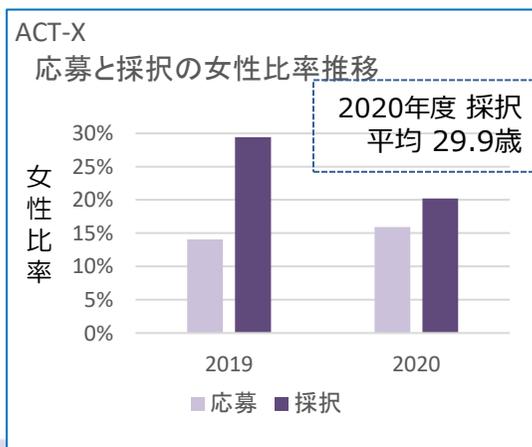
主要各事業への応募と採択の女性比率推移

各事業で女性研究者の応募・採択は、ともに低い傾向。そのような中、若手研究者に焦点を当てた新規事業として、ACT-X（15%、25% — 2年平均）、創発的研究支援事業（13.4%、18.7%）に効果が見られた

・年齢制限を設けていない従来の事業・・・応募、採択ともに概ね女性比率が10%に満たない



・若手を対象とした新しい事業・・・応募、採択ともに女性比率が10%を超える

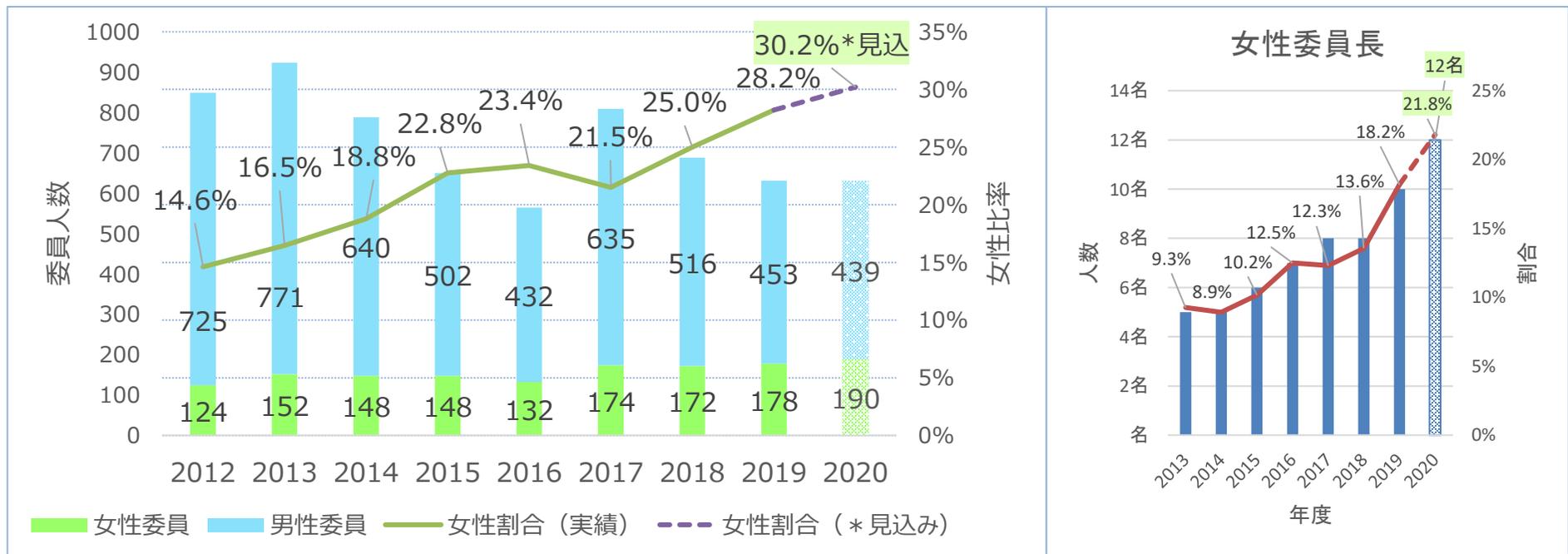


I. ファunding事業 2) 女性参画に影響するJST委員会等の女性比率 委員会等における女性比率 推移と取組

JST全体では2019年度末に28.2%、2020年度末に30%に達する見込み

【取組概要】委員に外部有識者を含む委員会等の女性比率30%を目指す(2020年度)

- 2019年度末(2020年3月) 55委員会等の委員の女性比率は28.2%(178/631名)、委員長は18.2%(10/55名)
- 2020年度末(2021年3月) 女性比率は30.2%前後となる見込み(3委員会が委員選定中)
- 各担当部署からの要請により人材を紹介するなどダイバーシティ推進に努めてきたが、今後は個々の委員会等においても女性の占める割合が少なくとも30%程度となるよう取り組む

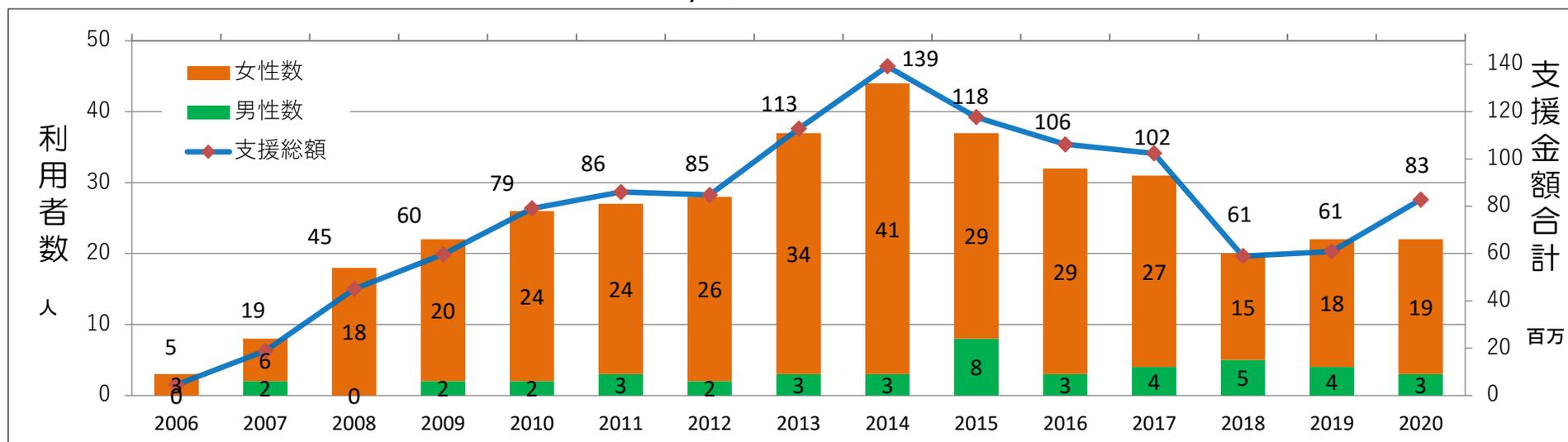


- ・2016年度は、単年度開催のジェンダーサミット10関連委員会(44名、女性70%)を除いた
- ・2019年度以降、委員会の定義を精査

出産・子育て・介護支援制度

- 支援人数、金額ともに、AMED移管（2015年4月）以降の減少傾向は2019年度で下げ止まっている
- 2020年度は制度改善により支援金額が増加。今後は本支援制度利用に向けて、JST全体で各事業での周知を進める

【制度概要】✓ JST事業参画研究者が、ライフイベントに際し研究開発活動の継続に係る支援
 ✓ 研究費を手当て（最大30万円/月、9歳まで—2020年度より制度改善）



用途例

- 研究開発機関での実験補助者の雇用経費
- 研究開発促進の為の消耗品・機器類購入
- 学会・研究会等へ参加するため臨時的に要する託児費用・研究補助員の雇用経費等（研究開発機関が研究遂行上の必要性を認める場合）

CREST研究代表者・さががけ研究者等のライフイベント支援

2019～ACT-X、2020～創発事業で研究期間中断、延長において事業毎に要望に応じた支援制度を導入

【制度概要】研究代表者等に2週間以上の連続した休暇を必要とするライフイベントが発生した場合の支援

➤ チーム型研究(CREST、ERATO)の研究代表者、研究総括

➤ 個人型研究(さががけ、ACT-X、創発的研究支援事業)の個人研究者

期間中の対応	研究代表者、研究総括に代わりその役割を担える者が代行して引き続き研究を推進することができる。
研究期間の延長	(チーム型研究のため)研究期間は延長しない。
研究費の取り扱い	(チーム型研究のため)チームとしての研究費は当初計画通りの予算額を使用できるものとする。

期間中の対応	研究を中断することができる。 さががけ: 週単位で中断 ACT-X : 休暇・休業期間に応じて中断 創発 : 週単位で中断
研究期間の延長	研究を中断した場合は、研究期間を延長できる。 さががけ: 中断した週数を限度として週単位で延長 ACT-X : 1年間延長 創発 : 中断した週数を限度として週単位で延長
研究費の取り扱い	研究費は当初計画通りの予算額を使用できるものとする。

II.社会の動向を踏まえた発信(国内外) 1) 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)

概要

女性研究者の活躍を推進する取組の一環として2019年度に創設。
優れた研究を行っている女性研究者を表彰する。今年度、第2回を実施

趣旨

女性研究者の活躍を推進する取組の一環として、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究などを行っている女性研究者及びその活躍を推進している機関を表彰。

対象

【輝く女性研究者賞】

女性研究者 1名(自薦/他薦問わず)

- 原則40歳未満(ただしライフイベントによる研究活動休止期間を勘案)
- 研究の実績のほか、社会貢献等も評価
- 科学技術に関連していれば分野は問わない
- JSTから賞状、賞牌、芦田基金から100万円を授与

【輝く女性研究者活躍推進賞】

機関 1機関(自薦/他薦問わず)

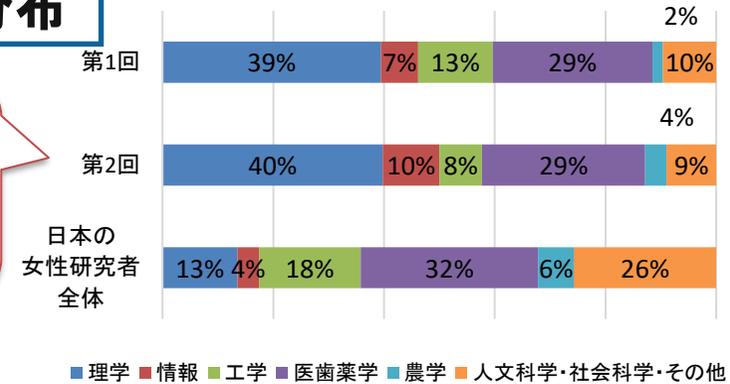
- 女性研究者の活躍推進に貢献する、他機関のモデルとなる取組を行っている機関
- 連携による広がり、効果・成果をも評価
- JSTから賞状、賞牌を授与

応募状況(応募期間 4月1日~6月30日)

輝く女性研究者賞(女性研究者) 78件 (第1回 104件)
輝く女性研究者活躍推進賞(機関) 12件 (同 12件)

応募者の分布

理学(40%)
情報(10%)
工学(8%)
医歯薬学(29%)



選考委員



鳥居 啓子(委員長)
テキサス大学オースティン校
Johnson and Johnson Centennial
冠教授
ハワードヒューズ医学研究所 (HHMI)
正研究員



浅川 智恵子
IBM ワトソン研究所
IBM フェロー



阿部 玲子
オリエンタルコンサルタンツ
グローバル
インド現地法人
取締役会長



大草 芳江
natural science 理事
FIELD AND NETWORK
取締役



北川 宏
京都大学 大学院理学研究科
教授



所 千晴
早稲田大学理工学術院
創造理工学部
教授



村山 斉
カリフォルニア大学
パークレー校 MacAdams 教授
東京大学国際高等研究所
カブリ数物連携宇宙研究機構
(Kavli IPMU)
主任研究者・教授



柳沢 正史
筑波大学
国際統合腫瘍医学研究機構
(WPI-IHS)
機構長

II. 社会の動向を踏まえた発信(国内外) 1) 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)

第2回 受賞者

- 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)として坂井南美氏、輝く女性研究者活躍推進賞(ジュン アシダ賞)として群馬大学を受賞者として選出
- 選考委員会において輝く女性研究者賞に匹敵すると評価できる応募者がいたことから、今回特別に輝く女性研究者賞(科学技術振興機構理事長賞)として星野歩子氏の受賞を決定

■ 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)

坂井 南美 理化学研究所 開拓研究本部 坂井星・惑星形成研究室 主任研究員
天文学と化学を融合した新たな分野の開拓により「太陽系のような環境は宇宙でどれほど普遍的に存在するのか」という天文学の根源的な問題に切り込み、多様な太陽系外惑星系の起源や、惑星系形成の解明につながる革新的な成果を挙げている。



■ 輝く女性研究者活躍推進賞(ジュン アシダ賞)

国立大学法人群馬大学(代表者 学長 平塚 浩士)

2014年度から理工学府の女性限定公募制度を展開し、理工学博士後期課程の女性比率や全学的女性教員比率が増加している(2019年度はそれぞれ25.8%、21.7%)。また、女性研究者への大学独自の研究費助成を受けた女性研究者による科研費採択が年々増加し、この結果女性研究者全体の科研費採択率が上昇した(2018年度は女性51.8%、男性48.3%)。



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

■ 輝く女性研究者賞(科学技術振興機構理事長賞)

星野 歩子 東京工業大学 生命理工学院 准教授

がん細胞が放出するエクソソーム(細胞外小胞)が、転移先の環境を組織特異的に準備するメカニズムに関与することを世界で初めて明らかにし、がん転移に関する診断や治療につながる革新的な成果を挙げている。



II. 社会の動向を踏まえた発信(国内外) 1) 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞) 表彰式と受賞講演、課題、次年度スケジュール

【課題】・論文以外の特筆すべき成果を有する応募者(産業界等)にも光が当たるよう、制度を見直し
・本賞よりさらに若手の女性研究者をもエンカレッジ

表彰式&トークセッション

- 第2回 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)
表彰式&トークセッション
- 2020年11月15日(日) 13:00~15:00
特別来賓 山東 昭子 参議院議長
来賓 上川陽子 法務大臣
大野 敬太郎 衆議院議員
板倉 康洋 文部科学省科学技術・
学術政策局長
プレゼンター ファッションデザイナー 芦田 多恵氏
- 受賞者と高校生2名によるトークセッション



課題

- JST理事長賞において、論文以外の特筆すべき成果を有する応募者(産業界のエンジニア等)も表彰できるようにする。
→第3回で応募者への告知、選考方法を一部、見直す。
- ジュン アシダ賞では研究実績を重視するため、40歳に近い研究者が受賞する。30歳代前半の若手研究者の将来性の評価が課題。

受賞記念講演会(予定)

- 第2回 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)
受賞記念講演会
- 2021年3月24日(水) 13:00~14:40
- 講演(坂井南美氏、星野歩子氏)
JST濱口理事長とのパネルディスカッション
(ファシリテーター: 渡辺副理事)
- Zoom ウェビナーを予定(事前登録制)

第3回 実施スケジュール(予定)

応募期間	4月1日~6月30日 日本時間正午
選考	7月~9月
発表・表彰式	11月初旬

II. 社会の動向を踏まえた発信(国内外) 2) ジェンダーサミット(GS)の展開

ジェンダーサミット (GS)

Gender Summit (性差を科学技術の主要因として議論する場) で継続的に発信

韓国国内集合
+ 海外オンライン



EU's Horizon 2020
Gender issues addressed
in STI & defined as cross-cutting

Seoul Declaration

The Role of gender-based Innovations for the UN SDGs

Tokyo Recommendation

- 1) Gender differences as impact factor for advancing STI
- 2) GE as success factor for interlinking different SDGs
- 3) GE2.0 as diversity factor for improving social inclusion

延期しオンライン



国内フォローアップシンポジウム→学術の動向に特集

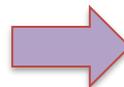
2018/6 ジェンダー視点が変わる科学・技術の未来
2019/7 SDGsとGender Equality 2.0
2020/8 壁を越える

II. 社会の動向を踏まえた発信(国内外) 2) ジェンダーサミット(GS)の展開 ジェンダー分析グローバルレビューの紹介

世界のFunding Agencyに対してジェンダー視点導入を評価する取り組み開始

- ・世界のFunding Agencyを対象にジェンダー分析がどの程度取り入れられているか検証
- ・世界21カ国40機関を対象に2021年にアンケート形式で検証実施
- ・Londa Shiebinger (Stanford大学) の提唱により2021年から検討開始
- ・アドバイザー: 欧州委員会、Wellcome Trust(UK), DFG, Irish Research Council, Université de Montréal, Center for Gendered Innovations in S&T Res.(韓国) JST, The George Inst. for Global Health, Minister of S&T & Productive Innovation(南ア)

評価内容	採点配分
言葉の定義	10
研修	25
提案書ガイドライン	25
提案の評価	20
政策実施の評価	20
合計	100



Category Label
Superior performance
Exceeds Expectations
Meets Expectations
Needs Some Improvement

理系で広がる私の未来

女子中高生・保護者向け 進路選択支援イベント

- ・女子中高生・保護者向けの進路選択支援イベントを、今年度は感染症の影響により動画セミナーとして開催
- ・イベント形式と異なり、東京や首都圏以外の中高生もオンデマンドで参加（視聴）可能となった

■進路で人生どう変わる？

理系で広がる私の未来2020

○内閣府 男女共同参画局 及び科学技術・イノベーション担当、
文部科学省 総合教育政策局 及び 科学技術・学術政策局、
JSTが合同で企画

○例年のイベント形式ではなく、動画セミナーとして開催
2020/8/3公開、内閣府や文科省とともに各方面に発信

対象：女子中高生、保護者、教員等

テーマ：「理系選択後の未来を知る」

内容：①基調講演：杉本 雛乃氏（東京大学大学院工学系研究科 修士2年）

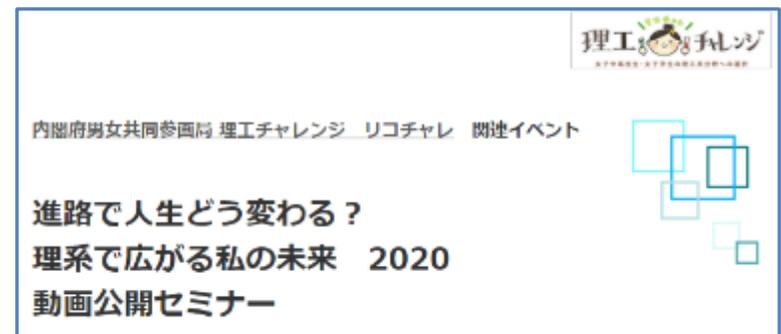
②理系で活躍する先輩による経験談：

東 志保氏（(株)Lily MedTech 代表取締役）

大草 芳江氏（NPO natural science 理事、(有)FIELD AND NETWORK 取締役）

長塚 真美氏（清水建設(株)入社4年目）

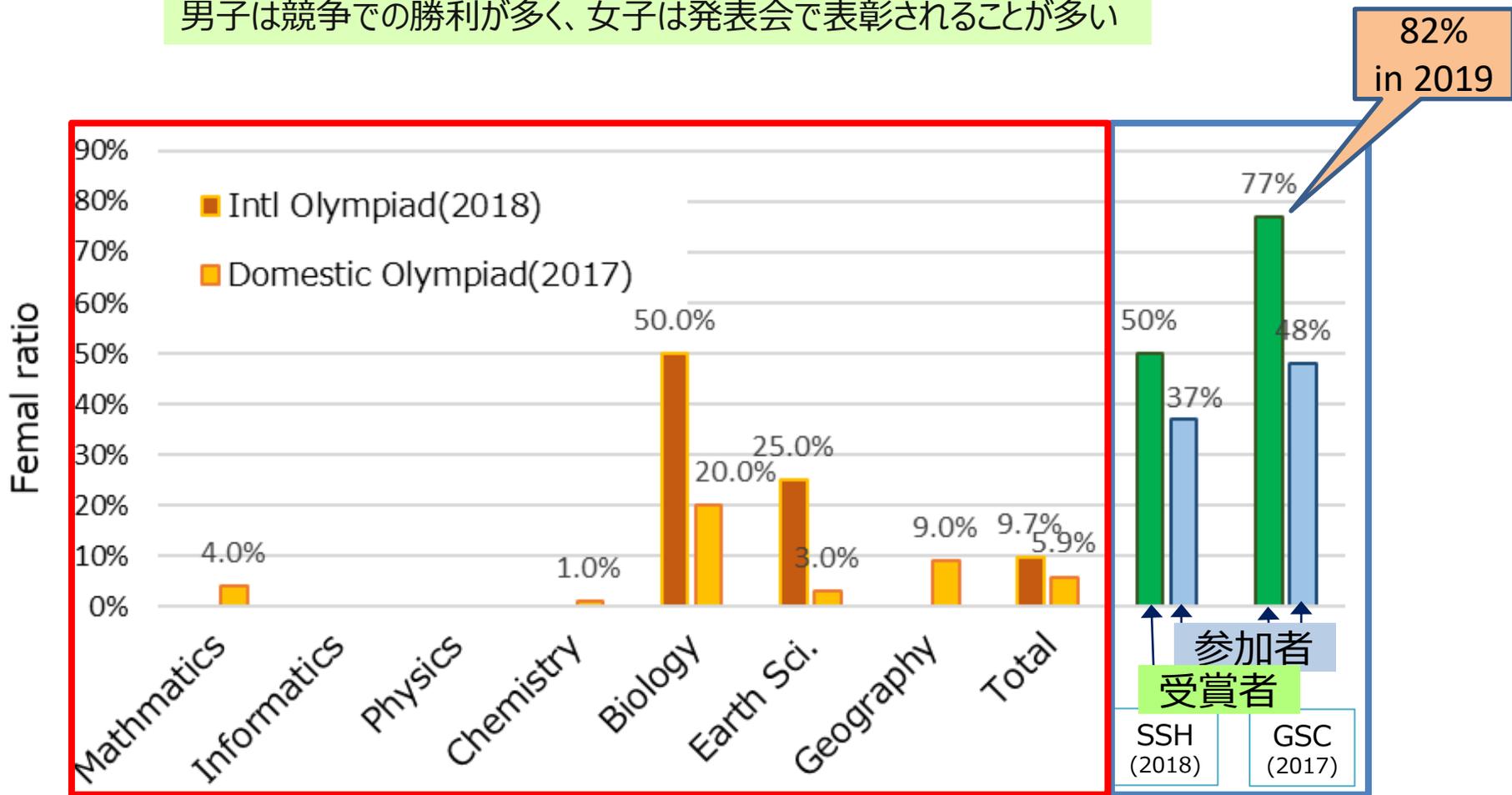
* 6か月間で合計2,600ビュー以上



<https://www.jst.go.jp/diversity/activity/seminar/rikeyojinsei2020.html>

科学オリンピック受賞者と科学研発表会受賞者の比較

男子は競争での勝利が多く、女子は発表会で表彰されることが多い



科学オリンピック (競争) ← → 研究発表会

今回ご意見をいただきたいこと

<今回ご紹介した現在の取組を踏まえ>

1. JSTのファンディング事業がより成果を創出するために、どのようなダイバーシティ推進が必要か。

ACT-X、創発的研究支援事業、ムーンショット(ミレニア)などにおいて、女性研究者比率は向上しつつあるが、今後、どのように展開すべきか。

2. 女性活躍推進以外のダイバーシティ推進として、何が必要か。

若手研究者育成や国際頭脳循環・国際連携を、CREST、さきがけなどの戦略事業からJST全体に随時展開中であるが、今後、どのように進めるべきか。